

児童・生徒のいじめの真相解明と対策を求める意見書

子どもがいじめられ、自殺する痛ましい事件が相次いでいる。

福岡県筑前町の中学2年生の男子生徒は「いじめられてもう生きていけない」と遺書を残して命を絶った。

「なぜ命を絶たなければならなかったのか、真実を知りたい」と母親が語っているように、何よりも真相の解明が求められる。

楽しいはずの学校で陰湿ないじめがなぜ起こっているのか。また、子どもたちを取り巻く現状はどうなっているのか。

日本の学校教育が競争を過度に進めた結果、子どものストレスが深刻であることが、国連の子どもの権利委員会より2度にわたって勧告が出されている。

いじめをなくすために、学校、家庭、地域など社会全体で子どもを守る取り組みが今日の重要な課題である。

いじめによる自殺が現に起こっているのに、文部科学省の調査では1999年度以降、7年間ゼロとなっている。いじめの実態と乖離している事実は見過ごせない。

三鷹市の公立小・中学校で、現在いじめを受けていると感じている小学生が11.3%、中学生が6.9%であることが、市教育委員会のいじめ実態調査で明らかとなった。

政府は、2003年3月、「いじめ、校内暴力などの「5年間で半減」を目指す」数値目標を決めている。

いじめの解決を数値目標ではかるという間違ったやり方が、いじめから目をそらし対策をおくらせてきたのであり、政府の責任は大きいと言わざるを得ない。

いじめ問題の克服の道は、学校で人間を大切にする教育を中心に据え、家庭、地域など多様な現場の声をすくい上げる努力が求められる。

子どもに生きる喜びと、確かな学力を身につける教育を進めるためにも、いじめ解決への対策が重要である。

よって、本市議会は、政府に対し、いじめによる自殺の真相解明、いじめ対策への数値目標の中止、過度の競争教育の見直しを図ることを要望する。

上記、地方自治法第99条の規定により、意見書を提出する。

平成18年12月22日

三鷹市議会議長 石 井 良 司